

平成28年度 大学の世界展開力強化事業 審査結果表

大 学 名	東京大学	タイプ	A-①
事 業 名	北京-ソウル-東京 (BESETO) ダブル・ディグリー・プログラム：国際・公共政策共同研究		

〔評価コメント〕

本事業計画は、東京大学、ソウル大学校、北京大学の間での教育連携プログラムの実績（キャンパス・アジアパイロットプログラム）を基礎とし、公共政策・国際関係分野における教育交流を推進し、将来の東アジアのリーダーとなり、3カ国間の国際関係改善に貢献できるグローバル人材を育成することを目的とした事業である。国際共同教育の促進による大学教育の国際化に向けて、これまでの実績に加え、学生交流のみならず、教員の相互交流・派遣を企画し、3大学間でのジョイント・コースの設置、各大学の教員による集中講義などの企画に基づく共同カリキュラム開発を行い、これまでの取組の共同性を一層高めるとともに、より高度なジョイント・ディグリー・プログラムの開発・実施を意図する意欲的な取組である。その展開に当たっても、大学間でのダブル・ディグリー・プログラムの開発や各国でのインターンシップ事業の実施などの優れた成果を活かした体制で実施する計画となっており、高く評価できる。

また、学生の支援体制についても、スタッフによる募集時から留学中、帰国後までの一貫した相談・支援体制の構築や、受入学生への一定の英語能力を有するチューターの配置、学生交流の組織的・効果的な支援を行うなどの実績があり、学生が積極的に本事業に参加し、共同教育プログラムの成果を享受し、将来のアジアのリーダーとして切磋琢磨することで優れた人材として育つものと大いに期待される。

一方で、大学院において英語による共同教育プログラムをデザインしている中、修士課程という比較的短い期間内で更に中国語、韓国語を習得するためには、活用できる外国語という視点からどこまで学ぶべきか到達目標を明確化し、そのためのカリキュラムについても工夫するなど、更なる検討が望まれる。

最後に、今回「大学の世界展開力強化事業」に採択された貴学におかれては、将来の我が国と中韓両国との関係を見据え、質保証を伴った国際教育連携の先導的モデルに中心となって取り組む拠点大学であるということの意義とその責任、期待の重さを認識し、事業内容の実現に向け真摯に取り組まれることを強く要請する。